

平成 23 年度第 4 回緑区地域福祉計画推進協議会議事要旨

【開 催】

開催日時 平成 23 年 12 月 10 日（土）14：00～16：04

開催場所 緑保健福祉センター 3 階 大会議室

出席者 委員 18 名中 14 名出席、手話通訳者 2 名
事務局 6 名（緑保健福祉センター所長、高齢障害支援課 3 人、社協緑区事務所 2 名）、市地域福祉課 2 名、緑区地域振興課 1 名

【次 第】

- 1 開会
- 2 委員長挨拶
- 3 議題
 - (1) 平成 23 年度緑区地域福祉計画の推進について
 - ①報告事項 ・各委員より報告
 - ②協議事項 ・小委員会について
※各小委員会での協議の報告
 - (2) 「みどりのきずな」第 16 号の承認について
- 4 その他
- 5 次回開催日程
- 6 閉会

【議事及び質疑要旨】

3 議題 (1) 平成 23 年度緑区地域福祉計画の推進について

①報告事項

矢野副委員長の進行により①報告事項が進められ、各委員から報告があった。

主な発言内容は以下のとおり。

(副委員長 A) 早速だが、第 2 期緑区地域福祉計画重点事業活動状況表に基づいて報告事項を進めさせていただく。最初は、おゆみ野地区の防災に関する取り組みと子育てに関する講演会について報告願いたい。

(副委員長 B) 防災に関する取り組みについてだが、12 月までの取り組み状況は、この資料に記載してあるとおりである。最終のまとめとして、来年 1 月 22 日に鎌取コミュニティセンターにおいてフォーラムという形で基調講演を予定している。第 1 回、2 回に続き、今回は第 3 回目の開催となる。内容は、被災地において子どもの支援を中心とした活動をされている方をお呼びして講演をする予定になっている。開催時間は、午後 1 時から午後 4 時を予定している。是非皆さんの参加をお待ちしている。

もう一つの子育てに関する講演会については、約 30 人の方々の参加をいただき、無事終了した。

(副委員長 A) 次におゆみ野地区部会の報告をお願いしたい。

(おゆみ野地区委員 A) おゆみ野地区部会では、これまでに 5 月から計 7 回のいきいきサロンを実施し、参加者は総計で 742 名であった。内訳としては、65 歳以上の高齢者が 513 名、社協地区部会スタッフが 161 名、一般ボランティア 68 名である。次に子育てサロンであるが、これまでに計 4 回実施した。そのうちの 1 回は、臨床心理士の花澤先生をお招きして講演会を実施した。社協地区部会スタッフ、民生委員、主任児童委員等約 50 名が参加した。子育てサロンの総参加者数は 254 名であった。

(委員長) 花澤先生の講演会はどこで開催したのか。

(おゆみ野地区委員 A) 会場は、緑保健福祉センター大会議室で、10 月 25 日に開催した。子育て支援について講演していただいた。

(副委員長 A) 次におゆみ野地区連協の報告をお願いしたい。

(おゆみ野地区委員 B) 10 月までの進捗状況は前回話したとおりである。お手元の第 3 回緑区地域福祉計画推進協議会議事要旨の 8 ページから 10 ページに詳しく記載されているのでご覧いただきたい。したがってこれからお話しすることは、12 月までの進捗状況の報告である。

まず、お手元の資料 A4 横の資料 2 ページをご参照いただきたい。詳しい内容は後ほど読み返していただきたい。口頭で申し上げると、①自治会の結成と加入促進については、2 つの系列に分けた。一つは、全く新しく自治会を立ち上げる新規自治会の結成。二つ目は、既存自治会の未加入世帯をいかに加入させるかの 2 系列に分けて作業を進めている。新規については、対象地域に意識調査として連協役員が一軒一軒家庭訪問している。既存自治会については、おゆみ野地区連協役員と地域振興課職員がタイアップし、一軒一軒回り意向打診をするという形で進めている。その結果、11 月 28 日のおゆみ野地区連協全員と緑区地域振興課幹部で合同ミーティングを開催した。現状把握と問題の把握、今後の進め方について協議し、今後の方針を決めた。新規自治会の加入促進について、前回の報告では今年中に 1 自治会といったが、少し難しいため、来年 3 月までに少なくとも数箇所は新規自治会を立ち上げたいと考えている。既存自治会の未加入世帯については、既に何世帯かの加入が見られているので、今後相当数になるのではないかと予想される。

次に自主防災、自主防犯組織の充実促進、防犯パトロールを含む育成強化については、おゆみ野地区連 47 町内自治会のうち 15 町内自治会がまだ防災会を立ち上げていない。11 月 13 日に防災会を立ち上げていない 15 町内自治会すべてを集め、区地域振興課と共催でミーティングを開催した。目標としては、今期末までに全 47 町内自治会に防災会を立ち上げることとしている。次に防犯パトロールだが、緑区は昨年度に比べ 16.5%の犯罪が減少しているとのことである。屋外盗の自動車、自転車、オートバイ、侵入

盗の空き巣等は、防犯パトロール隊の活動が大きく功を奏している。防犯パトロール隊については、県警所管と千葉市所管の2系列に分かれている。この現状を把握するため、現在調査している。来年早々に千葉南警察及び緑区地域振興課が実情調査したものを持ちより、情報交換し、来期末までにできるだけ、県警系列と千葉市系列のパトロール隊を一本化していきたいと考えている。

次に災害時要援護者支援体制だが、先般10月の会長会で本庁の防災対策課の課長にお越しいただき、おゆみ野地区のために特別にカラー版の漫画体の要援護者の登録についての資料を作成していただいた。これに基づいて、支援者カードの作成について徹底した。この支援者カードは、個人情報保護法の関係もあるので、すべてを埋めることは不可能なので、住所、氏名、年齢、災害時に援助が必要か、必要でないか等の必要最低限の項目を各町内自治会でまとめることにした。「無事ですタオル」だが、11月6日の会長会で全町内自治会の賛同を得ることができ、来年の2月までに全戸配布を目標に作ることを決定した。現在は数の取りまとめと発注作業に入っている。配布枚数は、それぞれの町内自治会の都合もあり、6,555世帯のうち約4,000世帯に配布する。配布しない町内自治会については、それぞれの町内自治会が、別途防災グッズの購入の内容を検討したいとのことであった。この「無事ですタオル」は、災害時、一早く安否を確認し、一早く援護の手を差し伸べるための一つのツールである。

(副委員長A) 次に椎名地区部会の報告をお願いしたい。

(椎名地区委員A) まず、資料の訂正をお願いしたい。資料3ページの12月までの進捗状況のところだが、11月17日となっているが、これは、11月19日の間違いである。その下の11月9日も11月19日の間違いである。この事業は、椎名小学校で開かれている「しいのみ祭り」という会場を利用し、地域住民と小学生とのふれあい会を開催した。内容は、昔遊びや物づくりを行った。次の活動拠点についてだが、まず、資料の訂正をお願いしたい。12月24日となっているが、これは11月24日の間違いである。活動拠点があれば、一層活動が活発化するのではないかとということで、引き続き続けていきたい。現在の状況としては、周りの団体と協力しながら、外堀を埋めて夏の陣に攻め入ろうかなと考えている。

(副委員長A) 次に土気地区NPO移送サービス事業についての報告をお願いしたい。

(土気地区委員A) 今年度は、4つの項目を目標として設定した。①有償運送「79条」登録の更新だが、前回報告したとおり9月26日で完了した。②会員登録140名については、11月末現在で124名、今日も一人増えたので何とか3月末までには140名に到達したい。③事業単体での黒字化についてだが、存続要件にもなっているので力を入れているが、新しい報告としては、まだ連絡がきていないが、12月末までに新車を1台いただくことが決定した。これは、24時間テレビの寄贈で小型福祉車両である。これによりどのようなメリットがあるかということ、車が新しいこともあり、燃費の向上、現在リッター9

kmだが、これがリッター16～17 kmくらいまでになればと考えている。また、9月26日の更新申請の際に値上げを希望したのだが、内容を再度検討することで延期になっている。これについては、来年2月に再申請し、何とか認可をもらい、黒字化に向けて推進していこうと考えている。④他団体へのノウハウ伝授だが、お声かけはいただいたが、現実進んでいないので保留となっている。

(副委員長A) 次に土気地区部会の報告をお願いしたい。

(土気地区委員B) ①ふれあい食事サービスは、土気地区と越智地区の2箇所で開催している。土気地区では、12月14日(水)に毎年お楽しみ会として会員の独唱や合唱をしている。スタッフもいろいろと企画しており、今年は2人羽織をする予定である。②いきいきサロンは、17箇所で開催している。これは、17箇所それぞれに特色があり、季節に合わせた活動やおしゃべりを中心とした活動等のサロンが開催されている。③散歩クラブも4箇所で開催しており、これもゴミ拾いをしながらの散歩や花を觀賞したりといった様々な特色がある。④子育てサロンについては、10月20日に昭和の森でどんぐり拾いを行い、新しい参加者が増えた。12月22日には、ちょっとした茶菓子等を用意し、お楽しみ会を実施する予定である。⑤ウォークラリーだが、11月23日に晴天の中無事開催された。天候により大きく左右されるのだが、当日の参加人数は、60組225名だった。

(副委員長A) 次に私から土気地区連協の報告をしたい。

緊急時のための防災別途ワークづくりだが、当連協はまだ、自主防災組織未結成の町内自治会がたくさんあるので、啓発という意味も含めて、昨年度は防災に関する講演会を開催した。今年は、実践的な講演会ということで、2月5日の午後に開催を予定している。昨年、おゆみ野地区で開催されたとのことで〇〇委員から紹介を受け開催するものである。市原災害ボランティアネットワークに依頼し、内容もある程度確定した。町内自治会に対する意識啓発が目的なので、各3人ずつの参加をお願いしている。約150人規模を予定している。

交通問題プロジェクトだが、前回も話をしたが、各ルートとコストも決め、これが実施されたらどのくらいの方が利用するかの調査を予定している。また、今月中に4つの中学校区ごとに各町内自治会長を集め、プロジェクトチームから今後アンケート調査を実施することについての説明を行う予定である。来年早々には、調査を実施したいと考えている。これが、うまく実施の方向に行くのかどうか、また、すべての地域がカバーできるわけではないので、それ以外のところにはデマンド方式等、いろいろな方法を考えるということで調査を進めているところである。

(副委員長A) 次に誉田地区の報告をお願いしたい。

(緑区老連委員A) 私の団体は誉田地区の括りになっているが、誉田というよりは、緑区老連の土気地区、誉田地区連の加盟会員で実施している。誉田といえばよいのか、それとも緑区といえばよいのか。

緑区老人クラブ連合会として、11月20日に誉田公民館において輪投げ大会を開催した。参加者は120名であった。11月23日にいきいきプラザにおいてゲートボール大会を開催した。参加者は、40名であった。誉田一丁目南公園でグランドゴルフ大会を開催した。参加者は、80名であった。10月までの進捗状況までが空欄になっているが、10月30日に240名の会員が集まり、誉田公民館で芸能大会を開催した。

(副委員長A) これは、活動の主なところが誉田地区なのか。

(緑区老連委員A) 誉田地区ということではなく、緑区老連である。私は、一応緑区老連の肩書で参加している。

(副委員長A) 今後は、この分け方について考えていきたい。

次に誉田地区連協についての報告だが、本日会議に遅れると連絡をいただいているので、来られた段階で発表していただく。

最後に障害者団体から障害者に対する地域住民のバリアフリーを進める講演会についての報告をお願いしたい。

(障害者団体委員A) なかなか進まない状況であるが、具体的に立ち上げたいということは話に挙がっている。ワーキンググループをつくり、自立支援センターを含めてグループホーム等を立ち上げたいと考えている。

(副委員長A) それぞれの各団体、グループ等により推進している事項について報告いただいた。これで報告事項は終わりとなるが、最後に質問等あればお願いしたい。

(椎名地区委員A) 質問ではなく、先ほどの報告で、日にちの修正をお願いしたが、最初に修正した日にちはそのままの1月17日をお願いしたい。これは、ふれあい食事サービスに生徒が参加して話をしたものである。

(委員長) ○○委員にお伺いするが、芸能大会は何日の開催であったか。

(緑区老連委員A) 10月30日、誉田公民館で開催した。

(委員長) どういう方が参加されたのか。緑区の方がすべて参加されたのか。

(緑区老連委員A) 誉田地区と土気地区は加盟しているが、椎名地区は加盟していない。

(委員長) 他の2つの事業も同じか。

(緑区老連委員A) 緑区老連で開催している。

(委員長) ○○委員、講演会の予定はあるか。

(障害者団体委員A) 心の健康教室として2月5日(日)午後1時30分から鎌取コミュニティセンター多目的ホールにおいて、新しい医療はどの程度進展しているのかについて、東大の専門の先生を講師としてお願いする予定である。詳しいことが決まり次第、こちらから連絡したい。

(委員長) チラシ等がありますか。

(障害者団体委員A) チラシは作成する。それと2月1日付の市の広報(市政だより)に掲載される予定である。

(委員長) 障害者自立支援センターについてだが、これはいづらか立ち上がっているのか。

(障害者団体委員A) まだ調査段階である。NPO法人たけのこ工房が既に立ち上がって作業所を作っているの、それを発展的に支援センター的な機能をつけたいと考えてい

る。いずれにしても市の補助金をいただかないと設立できない現状である。

(委員長) 支援センターの内容を具体的に教えていただきたい。

(障害者団体委員A) 24時間受付可能な生活支援相談、また、地域でショートステイの独立していくような訓練的なグループホームをつくりたいと考えている。

(委員長) 昭和の森ウォークラリーの参加者数はどれくらいだったか。

(土気地区委員B) 60組225名である。

(委員長) 午前中で終わったのか。

(土気地区委員B) 10時スタートで終了は14時頃であった。昭和の森キャンプ場がゴールで、ゴールした方から豚汁を配布した。

(副委員長A) 先ほどの〇〇委員の老人クラブの報告部分であるが、報告表の上の線を左まで延ばしていただき、地区名のところを緑区と修正していただきたい。〇〇委員の活動場所については、この活動は土気地区のままでいいか。

(土気地区委員A) 土気発着なので構わない。

(土気地区委員B) 土気地区部会で講演会を実施した。11月18日(金)健康講演会を地区部会福祉活動推進員が主体となって開催した。講師は、千葉市医師会の武村和夫先生で「認知症について」講演いただいた。認知症を見守るのは、地域が重要であるとのことであった。

(副委員長A) 誉田地区の防災マニュアル及び防災マップの作成について報告願いたい。

(誉田地区委員A) はっきりいって今月末に完成できるか疑問である。ある程度の内容は把握しつつあるので、それをどのように整理するかである。手元に〇〇委員からいただいた立派なものがあるが、これとは違った簡単な方法で作成しようと考えている。この地域は、津波での避難は100%ないだろうと予想されている。震度8・9といった大震災において、家屋の倒壊、それに基づいて人命をどのように保護するか、避難させるかが重要である。ただ走って逃げようではなく、まず自分の家を確認し、家族を確認し、夜になって住む場所がない時に避難場所まで連れて行かないといけないところを5地区で検討しているところである。鎌取地区は、避難場所としては平山小学校、広域避難場所は袖ヶ浦カンツリーである。まずそこへ行く前に、一旦集まって、避難というよりもその集まった地域の人々の家族を安否することが町の役割であって、夜を明かすための場所へ退避させることが必要なのではないかと思っている。月末に再度会合を設けるが、次回の会議までにできるように努力はする。8割程度は完成しており、残りの2割は整理する段階である。

(委員長) マップはできそうか。

(誉田地区委員A) マップとマニュアルは一緒に考えている。A3サイズの紙裏表とし、冊子にはしない。冊子にしてしまうと見ないで捨てられてしまう可能性が大きい。1枚の紙の裏表を使い、それに書き込めるだけの内容で初歩的なアピールをしようと考えている。難しいことは全然考えていない。

(おゆみ野地区委員B) 表はマニュアルで裏はマップということか。

(誉田地区委員A) そうである。電話があるところに貼っていただきたいと考えている。

(副委員長A) 以上で報告について終了する。

②協議事項

岡本委員長の進行により②協議事項が進められ、各委員から発言があった。

主な発言内容は以下のとおり。

(委員長) それでは、これから協議事項に入りたい。

椎名地区に記載してある災害時マップづくりであるが、今報告いただいたものを基にして当地区で考えていきたいと思っている。椎名地区では、災害があった時に、例えば刈田子地区のどこに井戸があるのか、発電機を持っている家はどこなのか等が掲載されているマップをつくりたいと考えている。椎名地区全体ではなく、各町内ごとに災害時に対応できるものをできたらいいかなと思っている。次回までに鎌取地区のマップやマニュアルができるようなので、そういったものを参考にしながら作っていきたい。もし小委員会を設置して検討するものがあれば一緒に考えていきたい。災害時のマップについて意見があればお願いしたい。

(障害者団体委員A) 災害の想定についてだが、地震と火災は一对になっているので、この辺の情報が入っていないのであれば、今後追加していただきたい。

(おゆり野地区委員B) A3版のマップの裏表はとても興味がある。今、手元に緑区地域振興課から入手したものだが、財団法人日本防火危機管理促進協議会の危機管理ハンドブックを皆さんに配ろうと思っていた。その中にハザードマップと避難ルートを確認しよう、防災マップをつくろうという項目が掲載されている。今後鎌取地区で作成したものも含めて検討するのも面白いかもしれない。各地域地域が身近にできるとよいと思う。この事業はお金がかかると思う。緑区まちそだて事業というのがあり助成金が最高で15万円出るのがある。この組織、小委員会がいただくというのはどうか。A3サイズの1枚にしたって結構お金がかかると思う。

(委員長) 災害時マップづくりの小委員会を設けて検討していくのはどうか。

(菅田地区委員A) 悪いことではないとは思いますが、それぞれ地域の特性があると思うので、このモデルをあなたのところの地区でというわけにはいかない。小委員会が何を意味するのか分からないが、緑区全体を想定しなければいけないと思う。

(委員長) 緑区全体ではなく、地区ごとにどのように工夫して作っていったらいいかなのである。

(菅田地区委員A) 4連協地域あるのだから、それを見据えて作らなければいけない。

(副委員長B) 4つ集めると緑区全体になる。

(菅田地区委員A) それを書面にしたら、自分のところには関係ないという人が出てくる。例えば平山のように土地が広くて家が少なくてどこにでも避難できる。地震は家が潰れて命を落としたり、火事で焼死体となるといったようになることが多いのではないかなと思う。道路が欠落し車が通れない可能性もある。個人的には難しいと思う。

(障害者団体委員A) まずは、被害想定が正しいかということもあるが、地盤の調査を含め、全体でつくるのが大事である。緑区は、地盤の状態はまちまちであるようで

ある。区の全体の被害がどのくらいあるのかが分かるものがほしい。

(委員長) 小委員会ができるようになれば、各地域でどのようなマップが必要なのかを検討していきたい。これについては、少し保留としたい。

次に児童生徒と施設入所者との交流についてお願いしたい。

(誉田地区委員B) 小学校は小谷小と金沢小の2校、中学校は土気中と誉田中、泉谷中の3校に対し、委員長、〇〇委員、保健福祉センター所長、事務局で訪問し依頼した。施設については、介護度があまり高いと難しいこともあり、比較的軽い方が入所されている軽費老人ホーム、ケアハウス5つを選定した。施設5つにも訪問し、事業説明した。現在、施設ではどのくらいの方が交流を望んでいるのかの確認をしていただいている。だいたい10名前後位の希望者がいるのではないかと思っている。12月中に名簿を作成し、小学校、中学校の生徒から自己紹介カードを提出してもらい、その後に手紙の交換が始まる予定である。

(委員長) 事務局から進捗状況の説明をお願いしたい。

(事務局) 〇〇委員からのご報告いただきましたが、現在、小谷小と金沢小、土気中と誉田中、泉谷中の計5校を訪問しました。そのうち、事業参加の有無につきまして金沢小の回答をまわっているところです。誉田中につきましても、生徒会の役員と協議しているとのこと。

(おゆみ野地区委員B) 施設入所は高齢者なのか。

(委員長) 高齢者である。

(おゆみ野地区委員B) 訪問された小学校の感触はどうだったか。

(誉田地区委員B) 小学校は校長先生が対応してくれた。介護保険のことを良く知っている方もいれば、そうでない方もいた。泉谷中は、子どもの心を育てるということでこのような事業を進めていきたいといていた。

(委員長) 小谷小と金沢小は、ボランティア活動推進協力校である。泉谷中は、特別支援学級があり、ボランティア部があり、積極的に参加したいとの話があった。

次に災害時障害者対応についてお願いしたい。

(土気地区委員A) 11月17日と12月8日に小委員会を開催した。名簿にもある通り、市障害者連合会の会長にオブザーバーとして参加していただいた。連合会の会長から横浜市の災害時に備えたというパンフレットをいただいた。このパンフレットに基づいて検討を進めていった。平常時の支援と災害時の支援の2つに分け検討した。大きな内容としては、平常時では、向こう三軒両隣、日頃の声かけを中心とすること。すべての情報をまとめることは個人情報保護の関係で難しいので、向こうからいつてきた場合の対応をどうするかを中心に協議した。それと同時に3障害といわれている、身体障害・知的障害・精神障害やオストメイトや内部障害を含めた話し合いをしていくことになった。3回目の小委員会についても1月26日にパンフレットのたたき台を作成し、次回推進協で皆さんに検討いただければと思っている。

(障害者団体委員A) 〇〇さんは身体か。

(土気地区委員A) そうである。

(障害者団体委員A) 先ほど 3 障害のことをいっていたが、支援法でいう知的障害・精神障害・身体障害のことである。どちらかというとも身体が主体になっている。

(土気地区委員A) そんなことはなかった。

(障害者団体委員A) 精神のことはいっていたか。

(土気地区委員A) 申し訳ないが、〇〇さんも委員ですから。発言があるのであれば是非参加していただきたい。

(障害者団体委員A) 平日は毎日仕事なので日にちが合わない。

(土気地区委員A) それは私も同じである。

(障害者団体委員A) できれば平日ではなく、土・日で調整いただきたい。私はこの会議に出たくてしかたがない。1月26日の小委員会には何とかまとめて話したい。

(土気地区委員A) 災害時に健常者の方がどのようなサポートができるかをまとめたA4表裏の1ページの簡単なものを作成したいと考えている。

(委員長) 障害者の災害時におけるパンフレットはつくるが、これはあくまで手段であって、それをつくることによって健常者も障害者に対する理解も深めるという視点も多く含まれている。障害者のためということと同時に、健常者のためのパンフレットとなることを目的としている。

(障害者団体委員A) 健常者も理解するということか。

(委員長) もちろんそうである。ただ単に障害者が災害にあったらどうするかというパンフレットと同時に健常者も障害者に対して普段から理解を深めていくというパンフレットになっている。例えば、災害時の発声の時には笛を携帯したり、救急キッドを冷蔵庫に入れるなどが掲載されている。どなたか救急キッドの説明をしていただける方はいるか。

(おゆみ野地区委員B) これは、筒状のもので中にビニールの袋が入っており、その中にメディカルカードのようなものに病歴やかかりつけ医、緊急時の応急処置について等の関連情報が入っている。それを冷蔵庫に入れておくと、事前に救急隊員が承知していると駆けつけた時に真っ先に冷蔵庫を開け確認することができるものである。

(委員長) このようなことは、健常者の方も知らない方が多いので、知らせていこうということでもある。健常者と障害者のふれあいを大事にしていこうというものである。

(障害者団体委員A) 障害者手帳の1ページ設けて、緊急時の情報を全部掲載することはできないのかを国とか県に話している。

(委員長) その内容をどのように入れるかを検討している。

(障害者団体委員A) このようなものは、このような場ではなく市でやってほしいのだが、受け入れてくれないといっている。

(委員長) 緑区としてどのように進めていくかを考えているので、是非委員会に出席願いたい。

(障害者団体委員A) 災害時には、私たちのメンバーは薬の問題が生じる。落ち着くまでは薬が入手できないので、4日間とか1週間の薬を蓄えておくような制度を作っ

くれということではなく、市にお願いしたいが、これも受け入れてくれない。

(副委員長B) この場は市に要望するところではない。とりあえず私たちの考えをまとめる必要がある。

(障害者団体委員A) ここで議論していることは市にも届くか。

(副委員長B) 多分少しは届くのではないか。

(委員長) 障害者が災害時にどうしたらよいかではなく、チラシをつくることによって緑区に住んでいる健常者も理解していただくということを考えていきたい。

(おゆり野地区委員B) 命のライセンスカードについて 4 地区区連協から正式に市連協へ要望事項として出している。市はしっかりと受け止めている。

(委員長) 次に見守りネットワークの構築について説明願いたい。

(菅田地区委員B) 地域包括支援センターとして地域の見守りネットワークづくりのその 1 として地域包括支援センターを知っていただく。あんしんケアセンター裕和園の今年度の事業としている。12 月までの進捗状況は、担当地域が広いいため、地域包括支援センターの広報が十分ではなかった。市の広報等でも結構 PR していただいているのだが、なかなか理解されない現状である。今年度はまず、広報紙「あんしんケアねっとゆうわ」を作成し、民生委員、町内自治会長に広報することを行っている。民生委員には理事会を通して配布していただき、また各地区部会で説明させていただいた。民生委員については、地区定例会に参加して周知した。町内自治会長の名簿の冊子を市からやっと 10 月にいただくことができた。11 月 2 日に裕和園圏域の町内自治会長 93 名に春・夏・秋号に千葉市あんしんケアセンターの冊子を加えて送らせていただいた。3 自治会から回覧したいとの連絡があり、必要部数を送った。また、いつくかの会長より、民間でやっているのに何故との質問があった。これでは良く分からないとの意見もあった。地区連の会長には苦情もあったことと思う。地域包括支援センターがまだまだ知られていない現実、広報されていないことを再認識した。町内自治会連絡協議会等に伺わせていただいて、広報させていただきたいと考えている。

その 2 として、小委員会を作ってネットワークづくりを目指す。地域の見守りネットワークづくりは、社協や地域包括支援センターとしても課題である。11 月 16 日に第 1 回小委員会を開催した。美浜区のある一部の地区の見守りネットワークについて学び、土気見守りネットワークの現状等の報告があった。12 月 9 日に推進協議会メンバーとあんしんケアセンター裕和園のメンバーで今後の方向を検討した。単に見守りといっても、個人の見守りから地域の見守りまでとても幅が広い。住民同士で声を掛け合う運動や地域の商業機関の見守り体制をつくる等の意見が出た。しかし、その構築になつては、私たちの知識が浅く、単にそれぞれの思いでの範囲での考えしかない共通認識を持った。そのため共有して学んでいくことが必要ではないかということになり、2 月 2 日美浜区にある見守りネットワークの

実態を見学し、来年度先駆的な事業を展開している事例を学ぶこととし、緑区まちそだて事業に応募して資金を得て、講演会等を開催したいと考えている。地域包括支援センターとしての問題であり、区社協や皆さんとも協力して、調査や講演等を開催していきたいと考えている。

(委員長) 地域包括支援センターとあるが、言葉の定義が難しく質問もあるかと思うが、小委員会の中に見守りネットワークの構築をどのように進めていくか模索中である。次回、再度 11 月 2 日に各町内自治会長に送付した春・夏・秋号のプリントを配布願いたい。

(菅田地区委員 B) 毎回配布しているが。

(委員長) これがそうだったのかというのが改めて分かるかもしれないので、是非お願いしたい。これをどのように進めていったらよいか非常に難しいところであるが、地域の人たちの見守りについて何か意見があればお願いしたい。

(おゆみ野地区委員 B) 各町内自治会に配布したのはこれか。

(菅田地区委員 B) そうである。

(おゆみ野地区委員 B) 3 自治会で回覧したいとってきたのは、おゆみ野地区か。

(菅田地区委員 B) 1 つは裕和園のすぐ近くの自治会であり、他の 2 自治会がおゆみ野地区のほたる自治会とはるのみち自治会である。全部ほしいというのは悪く思ったのか、ほたる自治会は春号だけ、はるのみち自治会は秋号と小冊子がほしいとのことであった。

(障害者団体委員 A) この見守りネットワークとは、例えば独居高齢者等に対してやろうとしているサービスなのか。また、ネットワークはどのようなイメージを作ったらよいか。

(菅田地区委員 B) 地域のネットワークとは、例えば、見守る人が地域のボランティアであったり、今までであれば、向こう三軒両隣の関係があり必要なことである。個人的な暮らしの中で、関心がなくなってきたり、コンビニや新聞配達店などの商業施設との協力体制を築いていければと思っている。個別での見守りを実施している地域もあるが、当委員会ではまだそこまで進んでいない。

(委員長) ネットワークをどうつくるかが課題である。

(菅田地区委員 B) 美浜区の磯辺地区では、見守ってほしい人と見守りをしてくれる人を募集していた。例えば、毎日雨戸が開いているのか、1 週間に 1 回は声かけをするといった個別の計画を作って実行しているところもある。それが、この地域であろうともいえない。

(障害者団体委員 A) 民生委員だけでは足りないのか。

(菅田地区委員 B) 実際に民生委員でも回数は限られるし、範囲も広い、負担も大きい。一昔前であれば、近所様子も分かっていたが、近年は近所の付き合いがだんだん希薄化し、お互いに無関心になってきている。今後、高齢者の一人暮らしが増えることが予想されている。

(委員長) 次回 2 月 18 日の推進協では、2 月 2 日に磯辺地区の視察研修に行くので、この件について報告したい。具体的にどのように進めているのかをご紹介したい。先進的に進めているところを参考にしていこうと考えている。今

後は小委員会で話を進めていきたいと考えているので、是非ご参加をお待ちしている。

協議については、問題提起ということで終わったかもしれないが、それぞれ小委員会で進めていることを、さらにこの場で煮詰めていきたいと考えている。第2期の計画を推進するように進めていきたい。

(2)「みどりのきずな」第16号の承認について

中村（和）広報委員長により「みどりのきずな」第16号について説明があった。主な発言内容は以下のとおり。

（広報委員長）裏面の2段空いている部分がある。先ほど〇〇委員と打合せをさせていただいたが、トピックの所に2月5日開催予定の「こころの健康教室」の原稿をいただくことに了承を得た。1段から1段半程度で字数では、約280字でお願いしたい。その半分を、〇〇委員にお願いしたい。申し訳ないが、原稿を1週間程度で作成していただき、原稿を事務局までお送りいただきたい。

4 その他

◆緑区まちそだて事業について

地域振興課より緑区まちそだて事業について説明があった。

主な発言内容は以下のとおり。

（緑区地域振興課）各事業説明の中で緑区まちそだて事業についてたくさんお話をいただいております。来年度予算のことなので詳しいお話はできませんが、緑区としましては、4月以降に応募を開始しますと事業の開始が年度当初になってしまうため、市としては非常に異例なことなのですが、2月位に募集を開始してみようという案で動いています。また広報等は差し上げますが、その予定でいるということをご認識いただければと思います。

（委員長）推進協としてではなく、小委員会として考えている。

（緑区地域振興課）そういう方々のために情報提供させていただきました。

5 次回開催について

◆第4回緑区地域福祉計画推進協議会

2月18日（土） 午後2時 緑保健福祉センター 2階 大会議室

◆福祉カレンダーの作成

1、2月版について、各団体で周知したい記事を記入の上、FAX送信していただきたい。

委員長が閉会を宣し、第4回緑区地域福祉計画推進協議会は散会。